

西山じゅんじの一般質問ダイジェスト



障害者雇用の先進事例として、委員会視察した広島県福山市の(株)エフピコ(食品トレーの製造会社)の取り組みは大変参考になった。本社と特例子会社で八十一名の障害者を雇用。さらに自立支援法の就労継続支援A型という手法で百六十一名の障害者を雇用している。トレーの回収・選別に多くの障害者が生き生きと働く姿に感動した。障害者は企業の戦力になるという意識改革を進めるため、企業経営者へのトップセールスを知事をお願いしたい。

質問

民間企業での障害者雇用
先進事例に本県も学べ!

六月定例会議会で西山じゅんじは今期二回目の一般質問を行いました。先進地の視察や現場の調査を重ね、県民の視点で知事はじめ執行部に論戦を挑みました。その主な内容をダイジェスト版で報告します。

また、就労継続支援A型という雇用形態は企業の側にも経営上のメリットがある。福祉施設だけでなく、民間企業もターゲットにして広めるべき。福祉部長に伺う。



県内企業を対象に障害者雇用の動向や具体的な事例を学ぶセミナーなどの取り組みを強化し、機会あるごとにアピールしていく。

上田知事



答

(福祉部長) 視察に同行し、私も深い感銘を受けた。株式会社によるA型事業所は県内で四社だが、提案のように企業に設立を積極的に働きかけていく。



質問

寝たきりを激減させた
御調町は素晴らしい!



同じく委員会で視察した広島県尾道市御調町は、公立みつぎ病院を中心に、保健、医療、福祉の各機関が連携することにより、寝たきりの高齢者の割合を三分の一に減少させ、なをかつ老人医療費も県平均より低いという劇的な成果を挙げている。

国も御調町を見習い、「地域包括支援センター」を設置することで保健、医療、福祉のネットワーク化を試みているが、本県の現状は?

また、御調町は農村型と言われるが、都市部のネットワーク化にどう取り組むのか?



答

(塩川副知事) 県内には現在二二六か所の地域包括支援センターが設置されており、都市部では和光市、農村部では小鹿野町が効果を挙げている。こうし

た事例を検証し、より普遍的なモデルを示していきたい。

質問

県立病院の経営状態は
「黄色信号」では?



二十年度の決算によると、四つの県立病院の純損益は七億六一〇〇万円の赤字。一般会計からの繰入金も八十一億六九〇〇万円で、前年度比四億五千万円の増加だった。数字で見ると、県立病院の経営状況は黄色信号では? 経営状態についての現状認識と今後の目標、合わせて優秀な医師確保策についても伺う。

答

(病院事業管理者) 二年連続の赤字を深刻に受け止めている。当面、病床利用率の向上を図り、早期に単年度収支の改善を目指す。また、より魅力ある病院づくりに取り組むことで、優秀な医師確保に努めていく。



以前は
経営改善された
だけに心配!?

